

長良川左岸（美濃病院側）のみなさんへ

国土交通省の遊水地説明会は何が問題か！

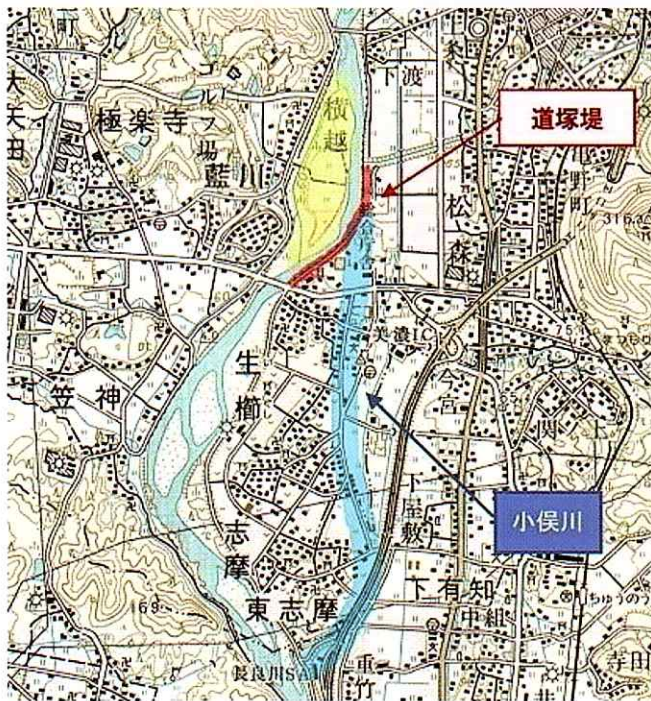
横越「遊水地」問題学習会

説明会の狙いは

国土交通省は、まん延防止で延期されていた横越に建設予定の遊水地事業の説明会をまもなく実施します。この説明会は、国土交通省が事業を開始するにあたり、**左岸側(中央・生櫛など)地元住民の同意が必要**のために開かれます。説明会后に自治会長に同意書を提出するように求めてくると思います。

横越遊水地が多くの問題を抱えていることは前回のチラシで説明させていただきましたが、改めて左岸側に関係する問題点を絞り解説させていただきます。

小俣川と道塚堤防



みなさんがお住いの中央、生櫛、志摩、桜ヶ丘などの地域は、昔、小俣川という川が流れていました（現在は生櫛地内に小規模河川として残っています）。

明治期に農地の開墾を目的に川をせき止めるために道塚堤防が造られました。

川は、左の図のように現在の美濃市教育委員会から、中濃庁舎、中有知小学校の裏手の道路に沿うように流れていました。

道塚堤防と生櫛の堤防は、美濃市の記録を見ても、造られてからも10回程度は越水や決壊を繰り返しています。

決壊すると旧小俣川に沿うように流れ、国道まで洪水になることもありました。

道塚堤防は、河原の上に玉石と砂れきを積み上げて作られた脆弱な構造のため、越水すると決壊する恐れがあります。

(左の地図は武藤仁氏作成)

遊水地が増水した水を受け止めてくれる？

国土交通省は、「長良川が増水した時は遊水地堤防の少し低くした部分（越流堤）から遊水地に水が流れ込み、受け止めてくれる」と説明していますが、満水するまでにどれくらい持ちこたえることができるのでしょうか。当局は、**平成16年水害を基準**として2時間程度と推定していますが、この時の郡上の雨量は**325mm**でした。岐阜県が「最悪の水害」と認定した昭和51年の**安八水害**では、**美濃市の雨量は3倍の840mm**でした。安八水害クラスの豪雨になれば**遊水地は1時間も持たない**のです。遊水地計画自体、岐阜市忠節の水位を下げるのが目的ですから、美濃市の安全は考慮されていません。

川幅を広げるため安全性は向上する？

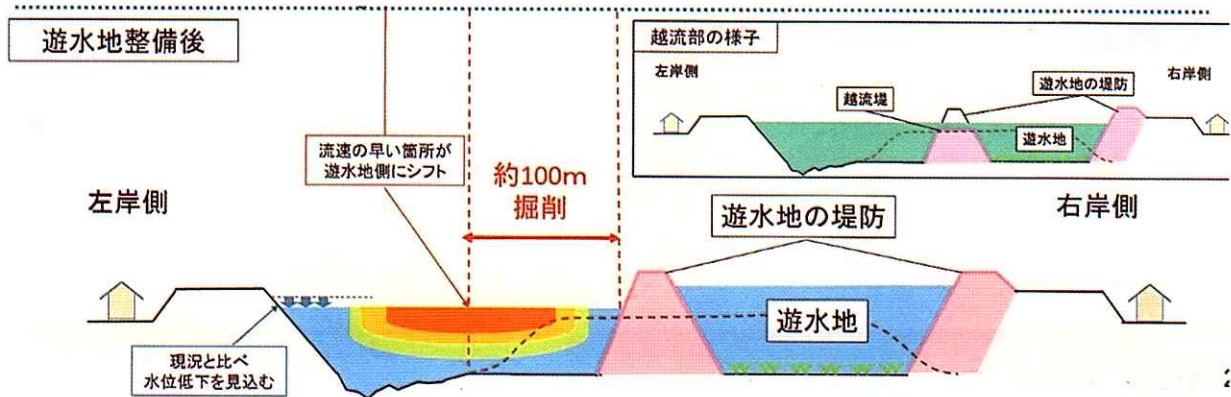
増水時は川幅が狭くなり左岸側堤防への負荷が増加する

そこで国土交通省は、「川の流れは中心部分が一番早いので、本川の**川幅を現在の100mから200mに広げることにより左岸側への負荷が軽減する**」と説明しています。これは増水していない時の話です。過去に道塚堤防が越水した時は、中央側から横越までの川幅いっぱいの500mほどに増水し、ついに耐え切れなくなり堤防を超えています。比較しなければならないのは、増水時の川幅です。**増水時の川幅は500mから200mに狭められる**ため、道塚堤防への負荷は増大します。

川の流れが、より直線的になる

今まで、増水時は右岸の横越側の流速が強くなっていました。前野の川の流れは横越に向かって流れているからですが、遊水地という新しい堤防が川の中に造られると増水した川の水は下渡橋から直線的に道塚堤防の湾曲部に向かって流れるようになり、今まで以上の負荷が道塚堤防にかかります。

遊水地堤防は左岸より最大で2m高くなる



国土交通省作成遊水地完成断面図(肥大側が中央地区です)

上の図は、国土交通省が作成した完成予想図です。見ればわかるとおり、左岸の中央側よりも遊水地堤防の方が高くなるのがわかります。**給食センターの南側で2mほど遊水地堤防が高くなります。**

しかも国のボーリング調査でも、玉石と玉石の間に空洞も見られますし、堤防の下は常時浸透水が流れていることが推察できますので、越水すると堤防破壊の可能性があります。

掘削するから川の流れがよくなる？

国土交通省は、「本川を掘削することにより道塚堤防に対する負荷が減少する」としていますが、中州横の本川は友釣り専用区があり掘削する場所は限られます。専門家は、「遊水地を建設した場合、水位・流速の変化が激しくなり河床侵食が活発化する」としています。掘削しても、一度の洪水で掘削の効果はかなり無くなるのではないのでしょうか。当局は、長期的な見通しを示す必要があります。

景観など問題は山積み

(1) 旧根尾村から美濃市大矢田まで武儀川断層があり、地震が発生すると阪神淡路大震災クラスの地震(震度7)が発生する可能性があります、道塚堤防が液状化により決壊する可能性があります。

(2) 先日、国土交通省のチラシが回覧され、読まれても何のことか理解できなかったと思われませんが、チラシは横越の中州に天然記念物のオオサンショウウオが生息しており、移動等の対応が必要との説明のためです。どのように読んでも、オオサンショウウオの生息場所が無くなる



<写真の中州は全て無くなる>

という説明にはなっていません。

(3) 写真は美濃病院横の桜並木ですが、桜並木の向こう側に中央側堤防よりも高い人工の遊水地堤防が造られるため、**景観も大きく変化**します。

(4) この地点は友釣り専用区ですが、**世界農業遺産の「長良川の鮎」の鮎漁への影響も重大**です。

計画に同意できる状況ではありません

国土交通省が左岸側住民に説明会で説明すべきは、住民の安全を脅かす遊水地計画の推進ではなく、道塚堤防の越水対策としての堤防の補強やかさ上げについてです。みなさんの命や安全にかかわる問題です。みなさんが納得できる十分な説明を求める必要があります。

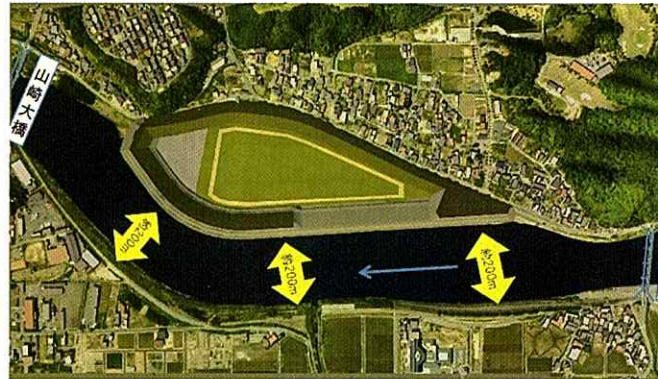
横越「遊水地」問題学習会 代表 野津 牧(0901753-2975)

横越遊水地計画は大変危険！

生櫛・中央側堤防決壊、横越側越水の可能性

横越「遊水地」問題学習会

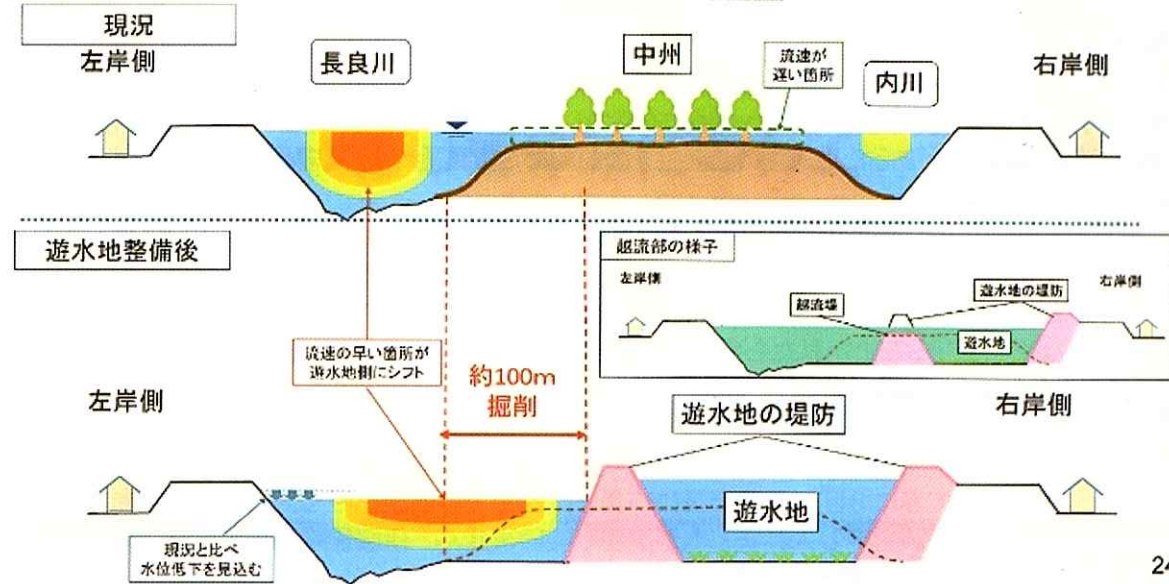
どのような計画でしょうか



国土交通省は、岐阜市を水害から守るために遊水地を計画しています。候補地の岐阜市溝口・保戸島南、関市下白金・小瀬・池尻、横越の6か所から、横越と池尻が選ばれました。遊水地は、増水時に川の外の空き地などに水を流すというのですが、美濃市横越のみ川の中の中州に造る計画です。

←左は遊水地の完成予想図

計画規模相当の洪水が発生した場合のイメージ図(越流堤より下流部)



—中州も支流の内川も完全に掘削される 大量の土砂流出により川や横越の環境はどうなるのか—

遊水地計画は岐阜市を守るための計画

今までの地元説明会では、遊水地は「戦後最大(規模)の水害」である平成16年水害を基準に「忠節の水位を下げる目的」と説明してきました。

なぜ平成16年水害が基準か？

平成16年水害は、本当に戦後最大なのでしょうか。長良川の戦後最大の水害は、5千人以上の犠牲者を出した昭和34年の伊勢湾台風です。下流の桑名市は1か月も水が引かず、美濃市左岸の(次頁へ)

(前頁より) 道塚堤防も決壊しました。

翌年の昭和35年8月の台風8号では、山崎橋下流が決壊し、中生櫛と下生櫛は胸まで水に浸かる水害に遭いました。さらに翌年の第二室戸台風でも長良川は左岸・右岸共に越水しています。

岐阜県が「最悪の水害」と認定しているのは、昭和51年の安八水害です。安八町の長良川堤防が決壊しただけでなく、岐阜市は中心部を除いて大水害に遭いました。

観測点の忠節橋を基準としている

平成16年の水害は、美濃市も越水しましたが、前述の安八水害などの水害に比較すると被害は限定的でした。他の水害は上流や下流が決壊したため、忠節橋の基準点での観測数値は平成16年水害よりも低く出ただけで、あくまでも忠節橋の流量が戦後最大なだけです。岐阜市の安全しか考えないデータを基準とした計画で、上流の美濃市のことなどは考慮されていません。

遊水地は1時間以内に満水か？—20年後の見直しでは遅い—

計画では、遊水地が満水になるまで平成16年水害で想定しても1~2時間ですが、安八水害では郡上市の雨量は平成16年の3倍近く降りました。遊水地堤防は大水害では1時間以内に満水になる可能性があります。美濃市民を危険にさらしかねない計画の総工費は108億円です。

私たちの会では、本年4月に木曾川上流河川事務所を訪問し、「想定できる最大の水害に対応する」ことを求めましたが、「この計画が完了する20年後に考える」と回答されました。

伊勢湾台風や安八水害のような台風や豪雨は、20年後まで来ないのでしょうか。

横越は「安価」が選定理由

令和元年(2019)の第1回木曾川水系流域委員会では、選定理由として「総事業費が最も安価となる組み合わせを検討」するとして、費用が安い方の1番の池尻と2番の横越を選定しています。

表 令和元年度 第1回 木曾川水系流域委員会 資料より(抜粋)

	横越	関市池尻	関市小瀬	関市下白金	関市保戸島南	溝口
地元状況	○用地・地役権が安価	○地元の安全度は向上	○地元の安全度は向上	○地元の安全度は向上	○地元の安全度は向上	○営農活動が盛ん

横越の選定基準は、「用地・地役権が安価」であり、美濃市の安全を守ることに一言も触れていません。他の候補地のうち関市池尻、小瀬、下白金、保戸島南の4か所は遊水地を造ることにより「地元の安全度は向上」するとしています。国土交通省としては、横越の遊水地計画が安全だとは書けない理由があるのでしょうか。

左岸は遊水地により越水・堤防決壊の可能性増す

川幅を左岸側(中央側)の200mに狭め、しかも川の中に新たな堤防を造ることにより、左岸堤防の越水の可能性が増します。左岸側は、伊勢湾台風と翌年(昭和35年)で堤防が決壊していますし、越水もたびたび経験しています。

横越の川幅は最大で500mほどありますが、遊水地堤防ができることにより左岸側の200mに狭める計画です。川の水が道塚堤防の湾曲部にストレートに当たり、堤防への負荷がかかる設計です。

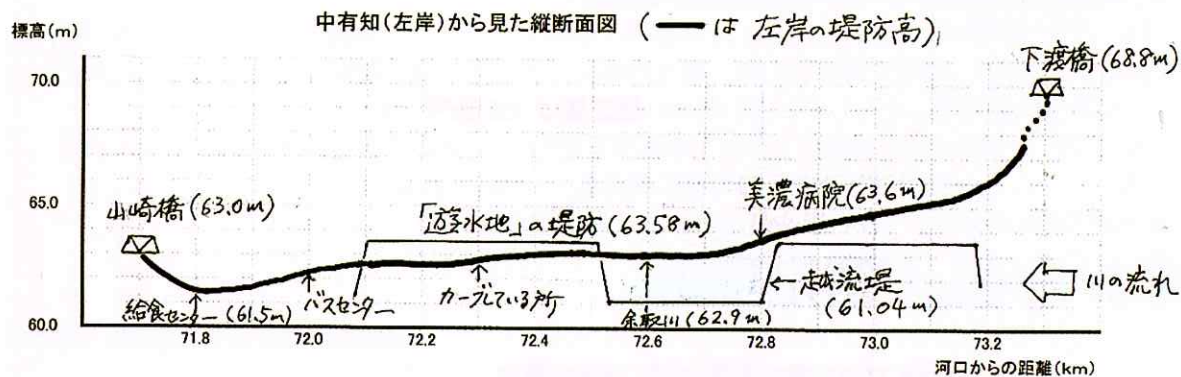
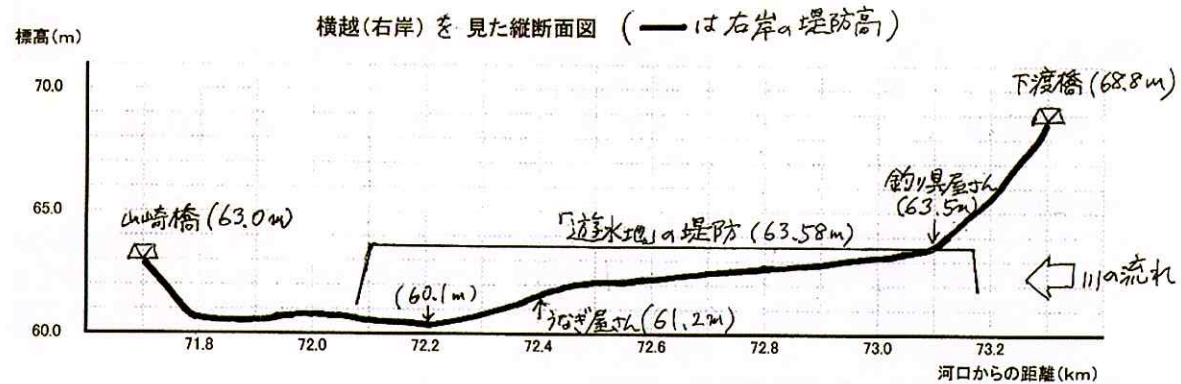
遊水地堤防は次頁図のように上流から下流まで同じ高さですが、現在の堤防は下流に向けて低くなります。遊水地最下部では左岸側の給食センターの裏辺りでは遊水地堤防よりも左岸側が2m低くなります。同所の湾曲部は対岸(遊水地堤防)よりも「40~50cm水高が増す」(専門家の話)ので、増水時に左岸側が越水して堤防が決壊する可能性や余取川のバックウォーター現象の可能性も高まります。

ボーリング調査結果で安全は証明されず

道塚堤防のボーリング調査を実施

今年に入り国土交通省が実施した左岸堤防の道塚堤防のボーリング調査の結果が出て、「表層滑り破壊」「パイピング破壊(浸透崩壊)」共に「安全が確保される結果となった」としています。

9月に入り、河川事務所と美濃市は左岸側住民に安全性が増したように説明していますが、(次頁へ)



国土地理院の地図より作成 上が右岸(横越) 下が左岸(中央側)

(前頁より) 堤防決壊の4分の3は越水による破壊といわれています。河川事務所は、建設決定後の今になってやっと越水による堤防への影響について分析を開始しました。

専門家・国土問題研究会の見解は

当会は、国土問題研究会という民間の専門団体にボーリング調査結果の分析を依頼しました(要約)。

- 地震時…液状化の可能性が高い事が予想され…堤防の破壊が予想される。
- 玉石と玉石の間が空洞になっている記載もあり、河川水位の程度によっては、パイピングが発生している事から、浸透流によって地盤破壊が起こりうる。
- 遊水地計画地の堤防予定地(中州のこと)に調査地点が設定されて無い。
- 長期的観点が欠如している。
- 環境影響に関する観点が欠如…中州は河川の浄化作用や生物の生息環境に重要。

以上のように、専門家も安全と言い切れる調査結果ではないと評価しています。

道塚堤防はもともと小俣川の河原をせき止めて作られており、ボーリング調査でも堤防の下に浸透水が流れているという結果が出ています。不安定な基礎の上に基礎も打たないで玉石や砂礫(れき)を積み上げている堤防ですから、越水すると堤防が崩れる可能性があります。

右岸の越水の可能性は解消されない

平成16年水害では、まず前野から右岸に向けて増水した川の水が流れ、横越上流部が越水して、そのまま横越は下流まで被害に遭いました。その後、左岸堤防(道塚堤防)側が越水しています。山崎橋上の湾曲部でまた右岸側に流れを変え、笠神の堤防を越えて大水害が発生しています。

つまり前野からS字カーブを描くように順番に洪水を起こしています。

遊水地堤防ができて横越上流部への負荷は変化がありませんので、平成16年と同等以上の豪雨では、横越側が越水する可能性は変わりません。平成16年水害では、下渡橋が狭くなっていることで本流が逆流し、前野が越水しています。遊水地ができることにより前野の水害の可能性が増さないでしょうか。

遊水地堤防は、上流部は現在の堤防と同じ高さで、下流まで高さは変わりません。

一方、現在の堤防は下流に向けて低くなりますので、遊水地堤防ができることにより、遊水地堤防と山に挟まれた現在の道路は滑り台のような水路の役割を果たします。豪雨が発生すれば、横越の上流部から集落に流れ込み、今まで以上に水害が発生する可能性もあるのではないのでしょうか。

内水氾濫の可能性も増します

横越は、従来から内水問題を抱えています。右岸道路は下流に向けて遊水地より3m以上低くなります。横越の集落内の水は、支流の内川に流れていますが、計画では支流が無くなり、堤防が造られますので地元でも内水氾濫の不安の声が出ています。

世界農業遺産「長良川の鮎」への影響は?

長良川中上流域は世界農業遺産です。申請理由では、「本流にはダムが無く、絶滅危惧種なども生息する清流で伝統的な鮎漁を守っている」ことをアピールして認定されました。

建設予定地は、友釣り専用区もありますが、掘削しますので鮎漁にも多大な影響が出ます。また、横越側は、現在の堤防のすぐ横に巨大な遊水地堤防が造られますので、**景観も台無し**になります。

横越に特別天然記念物のオオサンショウウオが生息

河川事務所との交渉の中で事務所側は、「横越にオオサンショウウオが生息している」ことを認めています。オオサンショウウオは、3千万年前から現在とほぼ同じ姿で生息している「生きた化石」と言われており、岐阜県から西日本にかけた限られた場所に生息している、日本固有の両生類です。

オオサンショウウオは、本美濃紙と共に美濃市が誇る宝です。生息場所の中州全体が掘削されれば生息地が無くなります。三重県や奈良県は保護の指針を作成し、県を挙げて保護しています。また、瀬戸市は、市が市民の協力を得て生息調査や生息地の清掃活動などに取り組んでいます。

美濃市長に保護を要望

当会としてオオサンショウウオの保護を美濃市長と教育委員会にお願いしましたが、美濃市は教育委員会を通じて、「そのまま見守り、生息地へ帰るのを待つ」との回答がありました。特別天然記念物は、そのままでは絶滅する可能性があるため保護の必要性を国が認めた貴重種です。見守るだけでは守ることはありません。

現在、美濃市が作成中の「美濃市文化財保存活用地域計画」にもオオサンショウウオの保護を入れるよう要望しましたが、「現計画には盛り込まない」との回答がありました。教育委員会は、オオサンショウウオの生息だけでなく、美濃市内に「ニホンカモシカも美濃市に生息している」ことを確認しています。

後世まで豊かな自然を守ることが私たちの役割ではないのでしょうか。

武藤市長は建設を推進する

武藤市長は、「遊水地に反対しているのは横越だけ」と事実とは違う説明で地権者である横越住民を説得しました。当会として春に3回、武藤市長に市長と語る会での面談を申し入れましたが断られました。今回も再度文書にて面談を申し入れましたが実現していません。伊藤建設部長が代理で回答され、「美濃市としては遊水地計画は危険とは認識していない」とのことでした。

武藤市長は、ぜひ、市民と対話していただきたいと思います。

村井かずひとさんの談話

当会として、美濃市元職員の村井かずひとさんにご意見を伺いました。村井さんは、「市にいた時は、遊水地計画により道塚堤防の強化が実現すればと思っていましたが、学習会のみなさんの説明を聞いて安全面でも問題点も多いことを知りました。美濃市の将来のために、子供や孫のために、しっかりと情報を共有して、市民全員で考えなくてはならない問題であります」と話されています。

横越「遊水地」問題学習会 代表 野津 牧